

ベトナムの古本市場

上田新也

●バッドン通りの古書店

ハノイにはベトナム研究者の多くがお世話になっている有名な古書店がある。ハノイ旧市街のバッドン通り五番地 (56, 5, Bat Dan) にある古書店がそれである。店主のファン・チャック・カイン氏 (Phan Truc Canh) は今年八〇歳となるが、いまだ現役である (写真1)。カイン氏は元々、ハノイ総合大学の事務員として働いていたが、一九八七年に退職して現在の場所に古書店を開業した。当時のベトナム経済は深刻な低迷期であり、ベトナムの学生や研究者は研究に必要な専門書や資料の入手が著しく困難な状況にあった。彼らの研究を手助けしたいと考えたのが古書店を開業した発端であるとのことである。開業した当初は取り扱う本は非常に少なかったそうであるが、現在では人文系・社会

系の専門書を中心としてカイン氏本人も把握しきれないほどの本を所有するに至っている。

この古書店が研究者に重宝されるのはそれなりの理由がある。もちろん理由の第一には古今を問わず膨大な専門書や地方出版物を入手することが可能であるということがある。ベトナムの場合、図書館などの公的機関においても専門書が体系的、包括的に揃えられていないことはまれであるうえに、仮に何処かの機関に所蔵されている場合も外国人研究者がそれらの情報を入手することが難しい、あるいは情報を入手しても閲覧が困難であるといった場合が非常に多い。一九九〇年代のドイモイ政策以降、こういった困難は徐々に解消されつつあるが、基本的に時間的制約が大きい外国人研究者にとって、煩雑な手続きが不要でなお

かつ町中を駆けずり回ることなく専門書をまとめて購入ができるという利便性は依然として大きい。

しかし研究者にとって何よりありがたいのはカイン氏の持つレファレンス能力である。カイン氏の古書店開業の動機が研究者や学生の研究の手助けであるということもあり、この点に関する知識と経験については他に抜きん出たものがある。カイン氏の場合、あらかじめ研究テーマや関心を伝えておくと、それに関する専門書や資料を体系的に揃えることができ、訪問するたびに個々の興味・関心に沿った関連書籍が次々と紹介されることになるのだが、時としてそれらがあまりに的確であるために、研究者は財布の中身と相談しつつ苦悶することになる。誤解なきよう付け加えておくと、決して「あれ買え、これ買え」的な強引なセ



写真1：バッドン通り古書店店主のカイン氏

ールスがあるわけではない。あくまで紹介された書籍を目前にして研究者が勝手に悶絶しているだけである。このような「研究者のツボ」を的確に押さえた販売をできるのが、(時としてその凄腕を恐れられながらも) 研究者に重宝される最も大きな理由であろう。このため外国人、とりわけ日本人研究者は多かれ少なかれこの古書店にお世話になってきた。カイン氏によれば、現在の顧客の八割ほどが外国人研究者であり、なかでも日本人は歴史・民俗・社会・政治・経済など研究の幅が広く、なおかつ研究者層が厚いために、かなりの割合を占めているとのことである。

●書籍サークル「サイックスア」

バッドン通りの古書店は店主の

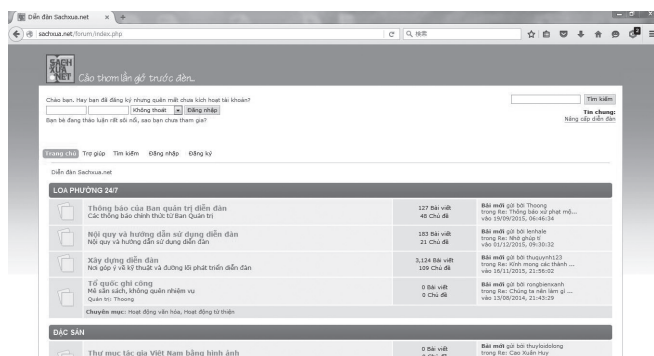


写真2：書籍サークル「サイックスア」

該博な知識とレファレンス能力に支えられた、いわば「古き良き古書店」であるのに対し、近年はインターネットの普及により新たな古書市場というべきものも現れてきている。先にみたカイン氏の古書店ではベトナム人研究者の利用が減少傾向にあるのも、これが原因と考えられる。ベトナムで最も著名なネット上の書籍サークルは「サイックスア (sach xua)」というウェブサイト (<http://sachxua.net/forum/index.php>) (写真2) であるが、筆者が入手した内部刊行物 (Nội san Sách Xưa) (写真3)

によれば二〇一〇年に設立され、二〇一二年時点で登録者数は九〇〇〇人を超えているとのことである。恐らく現在ではさらに増加しているであろう。特にネットに習熟した若手のベトナム人研究者はここで必要な書籍を入手することが多いようである。このサイトでは登録者間でそれぞれが所有する書籍と探している書籍が検索できるようにになっており、条件が合致した場合は当事者間で書籍の貸借や売買が行えるようになっていく。サイト内では本名である必要はなく、ほとんどがハンドルネームであるため具体的にどのような人々で構成されているのか筆者には正確に把握することはできないが、古書店が書籍を販売しているケースも散見されるものの、基本的には蔵書家、読書家、研究者といった個人の利用がメインのようにみえる。図書館に書籍が揃っていない、金銭的に購入が困難であるといった理由から、以前より行われていた個人間の書籍の貸借が、ネットの普及により爆発的に生じたのが現在の書籍サークルのようであり、現在では古書店も必要な書籍をこのような書籍サークルから調達することも多いようである。

●文化人としての古書店店主

ここに紹介した書籍サークルは、現時点では古書の販売ネットワークといったものとはかなり趣を異にしており、むしろ個人間の相互扶助ネットワークという性格が強い。利用者間で情報交換や書籍の貸し借りをを行うのが主目的であり、結果として金銭関係が発生することはあつても、これはどちらかというと副次的なものである。現在のベトナムの古本市場は、これら書籍愛好家のネットワークにより下支えされているようにみえる。たとえばバッダン通りの古書店店主であるカイン氏も雑誌や新聞などでたびたびハノイの文化人として取り上げられており、書籍を集めることそれ自体が趣味であるという蔵書家としての側面も併せ持っている。ゆえにカイン氏の場合、稀覯本に関しては原本を高値で売るのはなく、コピー本を割安にして販売するのみという場合も多い。もちろんカイン氏の場合、それは実益も兼ねているわけであるが、古書店店主と蔵書家という二つの側面が同居しており、現代ベトナム社会においてそれが文化的営みのひとつとして捉えられている点は、書籍サークル「サイ



写真3：サイックスアの内部刊行物

ックスア」において古書の販売と愛好家の相互扶助が渾然一体となっている状態をみると納得できるものがある。これを古本市場の未発達により商業としての古書店ネットワークと文化としての愛好家ネットワークが未分離な状態であるといえ、それまでもかもしれない。今後の経済発展により両者が分離していく可能性は十分にあるだろう。しかし、このネット上の書籍サークルを通じて利用者が職業的な枠組を越えた知識人ネットワークといえるものが新たに形成されつつあることは注意すべきであろう。(つえだ しんや／大阪大学招聘 研究員)